

カキ生育情報

千 葉 県
平成24年12月号

1年間の気象

平成23年12月から平成24年11月までの月別気象は表1に示した。月平均気温は平成24年5月、8月、9月及び10月を除く全ての月で平年と同じか下回った。この1年間の平均気温は15.3℃で平年より0.2℃、前年より0.9℃低かった。降水量は平成24年1月、5月～9月で平年を下回り、この1年間の合計は1,987mmで平年の98%、前年の126%であった。日照時間は平成24年3月～5月、7月～11月で平年を上回り、この1年間の合計は2,023時間で平年の104%、前年の91%であった。

表1 平成23年12月～平成24年11月の気象 (暖地園芸研究所)

年	月	気 温(℃)			降 水 量(mm)			日 照 時 間(時間)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
H23	12	7.1	8.6	10.0	153	83	131	160	166	175
H24	1	4.4	6.0	5.0	54	87	1	114	169	220
	2	5.2	6.3	7.6	161	97	138	122	151	121
	3	9.1	9.1	8.4	200	182	60	156	154	212
	4	13.4	13.8	14.3	210	172	104	171	166	229
	5	18.1	17.7	18.0	168	176	228	211	177	166
	6	19.7	20.7	22.0	196	240	136	125	135	112
	7	24.3	24.3	25.7	104	190	100	198	175	193
	8	26.6	25.9	25.9	14	145	57	257	220	234
	9	24.2	22.8	24.1	197	247	148	188	146	207
	10	18.3	17.9	18.3	301	253	325	165	137	139
	11	12.7	13.2	14.5	229	148	153	156	144	207
平均/計		15.3	15.5	16.2	1,987	2,020	1,581	2,023	1,940	2,215

平年：1968～2011年の平均

本年度産果実の特徴

本年産のカキの生育状況を振り返ると、3月下旬の気温が高かったため、発芽期は平年より早かった。その後気温の低い日があり、開花期は平年よりやや遅れた。春先の強風により新梢の枝折れや葉の傷害が目立った。本年は不成り年で着果量は平年よりやや少なかったが、梅雨明けが7月17日で平年より4日早く、夏期の気温が高く、初夏から初秋にかけて降水量が少なかったため、果実の肥大は遅れ、収穫果も小さかった。生理落果は平年並みで、炭疽病、カメムシ類の発生が多かった。

収穫期

収穫期は表2に示した。暖地園芸研究所(以下暖地園研)における収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「西村早生」が9月19日、28日、10月9日、「松本早生富有」が10月9日、17日、30日、「富有」が10月15日、26日、11月14日であった。「西村早生」を除いて、平年より4～16日早かった。本年の収穫は「松本早生富有」及び「富有」が平年より早く始まり、早く終了した。

市原市の「松本早生富有」の収穫始期、盛期及び終期は、それぞれ10月14日、11月10日、25日で、いずれも暖地園研より遅かった。

表2 収 穫 期 (暖地園芸研究所)

品 種	収 穫 始 期(月. 日)			収 穫 盛 期			収 穫 終 期		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
西村早生	9.19	9.18	9.12	9.28	9.29	9.26	10.9	10.7	10.4
松本早生富有	10.9	10.13	10.17	10.17	10.26	10.24	10.30	11.8	10.31
富 有	10.15	10.27	10.17	10.26	11.11	10.31	11.14	11.20	11.14

平年：1997年～2011年の平均

果実の品質

収穫果実の大きさ、糖度、へたすき及び汚損果程度は表3に示した。1果平均重は、「西村早生」が196g、「松本早生富有」が2地区の平均でみると217g、「富有」は209gであった。いずれの品種も平年より2～20%程度下回った。

糖度は、「西村早生」が15.3、「松本早生富有」が2地区の平均でみると17.0、「富有」は15.0であった。「西村早生」及び「松本早生富有」は平年よりそれぞれ0.6、1.9高かった。

へたすきの発生は市原市の「松本早生富有」が前年よりやや少なかったが、「西村早生」及び「富有」は前年と同程度であった。

汚損果程度はいずれの品種も前年と同程度であった。

病害虫の発生

暖地園研では、カメムシ類による吸汁害や炭疽病の発生が平年より多くみられた。

いすみ市では、カメムシ類、炭疽病の発生が平年より非常に多くみられ、落果の大きな原因であった。そのため、調査用果実の収穫が皆無で品質調査ができなかった。

市原市では、カキノヘタムシガの被害は少なかったが、ハマキムシ類の被害が平年より多くみられた。

表3 果実の大きさ及び品質

品 種	調 査 地	1果平均重(g)			糖度計示度(Brix)			へたすき		汚損果程度	
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	前年	本年	前年
西 村 早 生	いすみ市	—	202	168	—	14.4	15.1	—	少	—	少
	暖地園研	196	200	176	15.3	14.7	16.4	少	少	少	少
	平 均	—	201	172	—	14.5	15.8	—	—	—	—
松本早生富有	市原市	191	231	222	17.9	15.4	16.7	微	少	中	中
	暖地園研	243	247	230	16.0	14.8	16.5	少	少	少	少
	平 均	217	239	226	17.0	15.1	16.6	—	—	—	—
富 有	暖地園研	209	261	188	15.0	15.2	16.3	微	微	少	少

平年：暖地園研は1990年～2011年の平均、いすみ市及び市原市は1998年～2011年の平均

12～5月の作業

整枝・せん定

整枝せん定に当たっては、結果母枝の充実度を確認した上で、結果過多にならないように留意し、12～2月が適期である。せん定は間引きせん定中心に行い、切返しせん定による枝の更新も行う。特に不必要な徒長枝及び軟弱枝は全て取り除き、病害虫多発園では密集した枝を風通しが良くなるように適宜間引く。

摘 蕾

開花10日前～開花直前(5月上中旬頃)に行う。摘蕾は樹体の消耗を抑え、大果生産と隔年結果防止のために行うので、せん定の一部と考える。着蕾量が少ない場合は、小花、奇形花は落とすが、着蕾量を確認しながら過度には行わないようにする。着蕾量が多い場合は、充実した花蕾を残すよう摘蕾を徹底する。

病害虫防除

病害虫の越冬源を絶つために、落葉の処分と粗皮削りを徹底して行う。うどんこ病、落葉病、黒星病の予防は、発芽前の3月中下旬が防除適期である。また、カイガラムシ類の多い園では、休眠期の12～2月までが防除適期となる。展葉期の4月下旬は、うどんこ病、ハマキムシ類、フジコナカイガラムシ、チャノキイロアザミウマの防除適期である。防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

【生育情報の問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】
※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>